

トピックス

1. 播州日誌「自粛と自律」

2. 社労士への道 第6回 逆境の日々



福留経営労務管理事務所

姫路龍馬会

社会保険労務士・行政書士

福留章

龍馬通信

No. 38

2021年2月号

立春～雨水の候

コロナ禍の中での立春。春はまだ遠く、目の前の恐怖と先の見えない不安とで重苦しい空気が停滞している。第3派は2度目の緊急事態宣言の発出という事態に至り更なる自粛要請がなされている。もうコロナ禍は1年を過ぎ2年目に入っている。このウイルスの難しさは感染率の高い割に重症化率が低く、陽性となっても無症状や軽症者が多く、その事がコロナ対策を複雑で困難なものにしている。国や行政の政策を、後手後手にまわっているとか、筋が通っていないなど批判も大きいが感染症対策の困難さもあり、結果論でしか評価できないところがある。



自助、公助、共助という考え方が示されたが、つまるところ自分の身は自分で守るという基本は変わらない。今一番大切な事は、想像力を高めるということではないか。自分の行動が世代や国境を越えて多くの人々の運命と相互に結びついているという想像力。この想像力があれば、今、自分が何をすべきで、何をせざるべきかが認識される。「過去に学ぶ」ことは勿論大切な事だが、それとともにどうしたら「未来に学ぶ」ことができるかを考える時代になっている。医療従事者や専門家の人々がまさに最前線で想像力と決断力を発揮して、未知の事態を解き明かす為に奮闘していることに思いをさせ、せめて今自分ができる事をきっちりとする日常を、生き抜くべきだと思う。

参考文献 文春新書ウイルスVS人類 対談集 P110 瀬名秀明氏

※立春 2月3日頃

※雨水 2月19日頃

龍馬と私 龍馬脱藩後の足跡 (6)

1863年(文久3年)江戸の土佐藩邸より召喚の命があったがこれに応じることなく、再び脱藩浪士となった龍馬や勝塾門下生、千屋、新宮、近藤、沢村、望月らは、大阪薩摩藩邸内に塾居、藩老、小松帯刀らの庇護を受ける。これは1864年(元治元年)勝海舟に江戸召還命令が出、龍馬ら塾生の面倒を西郷隆盛に依頼したことによる。勝は同年9月11日大阪の旅宿で初めて西郷隆盛と会い二人で共和政治について話し合ったといわれる。



勝海舟に心服した西郷は僚友大久保利通に「実に感服の次第」と書き送っている。龍馬らの庇護の依頼もこの時されたものと思われる。勝から、西郷の話をつらつら聞かされるので龍馬はどうしても西郷に会いたくなり勝海舟に添状を書いてもらい大阪某所で出会ったようだ。勝海舟に問われて「少し叩けば少し響き、大きく叩けば大きく響く、どうもわからぬ奴だ」と西郷を評している。西郷は龍馬を評して「天下に有志あり、余多く之と交わる。然

ども度量の大、龍馬の如き者、未だ曾て之を見ず。龍馬の度量や到底測るべからず」と言っている。龍馬は勝海舟と会ったことで人生を拓くことができたが、西郷と出会ったことで、さらに大きく飛躍することになる。薩摩藩にも単に勝海舟に依頼されたというだけでなく、ある計算が働いていた。小杉帯刀から大久保利通に宛てた手紙にはこう書かれている。「土佐藩の国政は厳しく、勝海舟のもとにいた龍馬らが土佐に帰還する事は、死を意味する。脱藩者をひそかに大阪藩邸あたりでかくまおうと思います。いずれは彼らをもって航海の手先に召し使うことがよかろうと思います」「これに関しては西郷も同意しております」。薩摩藩は前年の1863(文久3年)7月の薩英戦争でイギリス艦隊の砲撃を受け海軍は潰滅状態。神戸海軍操練場で操船を学んだ技術者集団を薩摩藩海軍の中核におこうとしたのである。どちらにしても、龍馬らにとっては「渡り船」であった事は間違いない。



播州日誌

「自粛と自律」

第三波の感染爆発を受けて、2度目の緊急事態宣言が発出された。24時間不要不急の外出を避け、特に飲食店については営業の時間短縮を要請するというものだ。民主主義の国では、共産主義の国と違って、上意下達が出来ない。民主主義は主権が国民に存在するので、私権の抑圧は厳しく限定される。従って、自粛を要請して国民の協力をお願いするという形になる。民主主義が秀逸な思想であることは歴史的に実証されているが、時折その面倒くささが問題になることがある。何かと民主主義を活そうとすれば手間ヒマがかかる。自粛要請や入院勧告に従わない人々への罰則や社名の公表などの法則化が言われているが、民主主義国家としてはこの手続き抜きでは、私権を著しく制限してしまうことになる。自粛とは「自ら進んで慎むこと。」自律とは「自分で決めた規則に従いわがまを押しさえること」とある。どちらも自分の意思でという所はポジティブなものであるが、自粛と自律の間には決定的な重みの違いがある。国民が受ける「自粛」のイメージは上から言われてそれに従うというものである。自粛を要請するならば、当然に補償の裏づけが必要であるとの意見も強い。自粛要請に基づく自粛は基本的に言えば主体的ではない。だから非常時には「自律」こそが必要だと思う。多くの情報を得て、このコロナ禍の中であって、自分がどう動くべきかを、真剣に誠実に考え自分の行動を決める。自分自らが考え出した規則であるから守ることもそれ程難しくはない。

絶対にマスクをする。手洗いうがいを励行する。不要不急の外出は控える。3密にならぬよう行動する。自分でそう決めたのだから守り易い。自律のない自粛は長続きしないし、不平不満も多くなる。自分が感染しない事は人に感染させない事であり、これを称して人間愛にもとづくボランティアと表現する人もいる。非常時には自律が必要だ。想像力を大きくしてコロナを恐れ、死を思い、はじめて強い意志をもってコロナに立ち向かうことが今多くの人に望まれている。

専門家の意見や見解に注目するけれどあてにせず、政治家の言う事にまどわされず、自分自身で真剣に考えて行動する事。これがなによりも大切な事だと思う。

2021.1.13

「たかが年金、されど年金」

「年金が危ない」という話がしばしばメディアに登場する。本当にあぶないのだろうか。日本の年金制度は賦課方式。積立方式を主張する人も多いが理論上は砂上の楼閣に近い。賦課方式である以上、現役世代が働いて経済成長していれば制度的に破綻することはない。給付年齢を遅くするか、給付額を下げるとかの対策は必要だが、公的年金制度はメディアが言うほど危なくはないのだ。結局、制度維持の対策は3つ。

- 1.経済成長を続けること。
- 2.受給開始年齢の繰り下げ。
- 3.厚生年金の適用対象を拡大する。

この適応拡大については次号にて更に詳述。

参考文献 幼冬舎「自分の頭で考える、日本の論点」出口治明著

2021.1.30



「社労士への道」

第6回 逆境の日々

歩みだしたものの、毎日することがない事に気づく。生活の為に金を稼ぐ必要があった。親子4人の暮らしを維持しなければならない。とりあえずアルバイトを考え求人広告などを漁った。アルバイト言えば、大学の4年間、苦学生であり殆どアルバイトの4年間だった。当時大学紛争が盛んな時代で、学校がロックアウトされていたため十分働く時間があった。車のバッテリーから金属部分を取り出す仕事から、ビヤホール、キャバレーのボーイ。会社の宿直、昼間工場のパートさん、学生アルバイトの指導係などなど。後半の2年間に集中していたが、とにかく昼も夜もだから友達連中のなかでも一番金を持っていた。短期間ではあっても、職場で正社員の人に可愛がられて、夜飲み連れて行ってくれる事もあった。アルバイト慣れしているというよりも働く事が好きだったので。その動機は酒を飲むことだったから純粋とは言えないけれど、その労働の中から経験として学ぶことも多かった。最初に取り組んだのが、近くのSというスーパーマーケットの早朝アルバイト。5時半くらいに出勤して3時間程度。主に牛乳や練製品、パンなどの品出し作業。すべて「先出し先入れ」の世界なので、巧妙に古いものを手前に新しいものを奥に入れる。牛乳のパックを両手に6本程持ち、コーナーに投げるように入れる。2週間もするうち、すっかり慣れて器用だと褒められたりした。2年目に入るとしっかり店長に認められて、特売品の選定や特価品のバーコードによる単価変更の登録作業も任される。

冬の早朝の寒さに閉口したが、あまり苦痛とは思わなかった。一度だけ牛乳を出すのと、在庫しておくののを聞き間違えて怒られたこともあった。色々学ばせてもらった事も多い。何より楽しみだったのは毎朝賞味期限の迫った商品が段ボール箱に一杯出てくること。迫っているのであって切れているのではない。極端に言えば、今日がその期限である商品が殆どだ。スーパーでは、当日切れのものは半額として売り出すか、あきらめて初めから処分するかどちらかとなる。ラーメン類が多かった。恐る恐る店長に聞いたら、中毒になっても知らんけど、まあ処分品だからご自由にどうぞと言うことで、毎日相当数の商品を家に持ち帰り、昼、夜食のテーブルに乗った。それでも余るので、隣近所に配りまくった。当時のその話は、今でも語り草になっている。家でも随分食時代が浮いて助かっていたようだ。早朝アルバイトに併行して、7月と12月に、中元、歳暮商品の配送の仕事をした。H社に入る時、簡単な運転テストがあったが何とか無事合格。市内4カ所の配送拠点にハイエース一杯の商品を届ける。繁忙期には一部助手席に積む程の荷物。無人の所もあれば、ある雑貨屋さんでは家族総出で手伝ってくれる。近くのお宮の空き地に車を置いて、十数メートル離れた店に運び込む。夏は汗びっしょり。冬でも額に汗がにじんだ。すっかり仲良くなって、帰り際に、夏は缶サイダー、冬は缶コーヒをくれた。記憶に残っているのは冬、街はクリスマスの季節。輝くイルミネーション。そしてクリスマスソングを運転席で聞いた。



「俺、何をやってんだろう」とふと思ったことも。しかしやがてくるだろう、一人前の社労士として活躍する自分を思い描きながら、バイトを続けた。楽しかった訳ではないけれど悲しいということでもなかった。

わずかな報酬を喜んでくれた妻の笑顔が嬉しかった。3年位はそのような状況が続いた。ある社長さんから、もうぼちぼち本職1本にしたらという勧めがあって、アルバイトを卒業した。スーパーの店長からは、何とかもう1年だけと説得されたが、最後は本職の方の頑張ってくださいということで円満に退職ができた。この数年間のことは今では懐かしい思い出になっている。前向きに生きたこの頃を大切な財産にしたいと思っている。

順調とも見えた社労士への道は、この後大きな挫折を迎える。その時が知らぬ間に、しかし確実に、近づいていた。



SDGs とは「持続可能な開発目標」

5つのキーワード 17のゴール

1 People (人間)

貧しさを解決し健康に

- (1) 貧困をなくそう
- (2) 飢餓を0に
- (3) すべての人に健康と福祉を
- (4) 質の高い教育をみんなに
- (5) ジェンダー平等を実現しよう
- (6) 安全な水とトイレを世界中に

2 Prosperity (繁栄)

経済的豊かで安心して暮らせる世界に

- (7) エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- (8) 働きがいも経済成長も
- (9) 産業と技術革新の基盤を作ろう
- (10) 人や国の不平等をなくそう
- (11) 住み続けられるまちづくりを

3 Planet (地球)

自然と共存して地球の環境を守る

- (12) つくる責任つかう責任
- (13) 気候変動に具体的な対策を
- (14) 海の豊さをを守ろう
- (15) 陸の豊かさをを守ろう

4 Peace (平和)

平和と公正を実現しよう

- (16) 平和と公正をすべての人に

5 Partnership (パートナーシップ)

みんなが協力し合う

- (17) パートナーシップで目標を達成しよう

このようなハガキが届いてませんか？

届いていたら**事業主印**をご捺印の上

当事務所までご連絡下さい。

The collage includes several official documents:

- 雇用保険の手続漏れはありませんか?** (Have you missed any employment insurance procedures?) - A notice from the Social Insurance Agency regarding the 2024 fiscal year deadline for reporting new hires.
- お願!** (Request!) - A notice about reporting changes in residence for employment insurance purposes.
- 公共職業安定所 (ハローワーク)** (Public Employment Security Center) - Information for the Hakowaku branch in Gokiso, including contact details and a QR code for the website.
- 年金納付書** (Social Security Contribution Notice) - A form for reporting income and paying social security contributions.
- 雇用保険手続電子申請 (e-Gov) 申請書** (Employment Insurance Procedure Electronic Application Form) - A form for applying for employment insurance procedures online.